

開倫塾塾生の皆様

受験生の心構え

——一所懸命に徹しよう——

開倫塾

塾長 林 明夫

1. <はじめに>

- (1) 今日は12月1日です。来年1月の入学試験までは1か月余りとなりましたので、受験を控えた塾生の皆様に「受験生の心構え」をお伝えいたします。
- (2) よくお読みになり、実行してください。必ず希望校合格を果たすことができます。
- (3) 来年1月に受験のない学年の塾生の皆様も、今から「受験生の心構え」を身に着け、「一所懸命」に徹して希望校合格を勝ち取ってくださいね。

2. <受験生の心構え、その1>「受験生としての自覚」

- (1) ものごとに取り組むときには、「自覚」を持って取り組むことが最も大切です。
- (2) 「自覚」とは、「自分自身についてはっきりと知ること」です。その内容は、次の3つです。
 - ①自分の状態・地位・任務・価値がどんなものかを、よくわきまえること。其のわきまえ。
例：「責任を自覚する」、「成人としての自覚」
 - ②自分で感じ取ること。
例：「自覚症状」
 - ③（仏教用語）自分が主体となって、迷いを断ち、正しい道を悟ること。
*以上、「岩波国語辞典」より引用しました。
- (3) 自分はいったい何者なのかをよく知ること、よく知った上で、自分が今しなければならないことを自分の力で考え、迷いを断ち、行動すること。これが自覚であると、私は考えます。
- (4) 来年の1月に受験を控えた塾生の皆様は「受験生」ですので、是非、「自分は受験生であるとの自覚」、つまり、「受験生の自覚」を強く、強くお持ちになり、「一切の迷いを断ち切り」、「一所懸命」に行動することを期待します。

3. <受験生としての心構え、その2>「一所懸命」

- (1) 「一所懸命」とは、「一つの所で、命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組むこと」であると考えます。

(2) 受験生の皆様は、「自分は受験生であると自覚した上で、一切の迷いを断ち切り、一つの所で、命を懸けるくらい熱心に受験勉強に取り組むこと」が大切です。

(3) この「一所懸命」は、開倫塾が、創業以来、37年間、塾生の皆様に訴えてきた、「基本的な勉強の姿勢」です。

*開倫塾の公認キャラクター「カイくん」と「リンちゃん」が身に着けているのが、開倫塾伝統の「一所懸命」はちまきです。後で見て、かわいがってくださいね。

4. <受験生の心構え、その3> 「ハードな長時間自己学習」

(1) よく考えれば、入学試験とは、今在学している学校で学んだことをスミからスミまですべて十分に理解し、理解したことを正確に身に着けた(定着させた)上で、過去に出題された問題(過去問)を繰り返しやり直せば、どのような難関校でも、また、現在の成績(偏差値)に関係なく、短期間で突破できるものです。

(2) これを行うためには、「ハードな長時間自己学習」がすべての受験生に求められます。文字通り、受験勉強はやるべきことが山ほどありますので、短時間では終了しません。

(3) そこで、私がお勧めするのは、受験生は、自分は受験生であると自覚した瞬間から受験当日まで、眠る時間以外は「ハードな長時間自己学習」に徹した受験勉強を行うことです。

(4) この実現が家庭ではなかなか難しい塾生の皆様が多いため、開倫塾では創業以来37年間、開倫塾の空いている机やいすを用いて、夕方から夜10時30分まで、塾の授業のない時間に「ハードな長時間自己学習」を許可しております。

(5) 学習塾の中には、利用する机やいすがなければ、床に座って、または、立ったままで勉強する塾もあるようです。開倫塾でも、見習いたいと思います。

5. <おわりに> 「あきらめたらおしまい」

(1) ものごとはすべて、「あきらめたらおしまい」です。

(2) 最後の最後まで、入学試験の当日に試験用問題が配付される直前まで、自分のなすべき勉強をし続けましょう。

(3) どのような方法で受験勉強をしたらよいかについては、「開倫塾の学習の3段階理論」に具体的に示してありますので、開倫塾の先生方から十分に教えてもらってくださいね。

(4) 今一番やらなければならないのは、その日に解いた問題をもう一度解き直し、なぜそのような解答になるのかを、授業中のノートや解答・解説をもう一度よく読んでよく考えることです。その上で、間違えた問題をもう一度やり直すことです。

(5) 意味のよくわからない語句は、辞書を用いて調べる。大切な内容、特に、重要語句の定義（語句の意味）は、音読練習と書き取り練習を繰り返して正確に「暗記」すること。これらも必ず行ってください。

以上です。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

2016年12月1日(木) 7時15分